

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 2 月 23 日 (2006.2.23)

【公表番号】特表 2005-538929 (P2005-538929A)

【公表日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【年通号数】公開・登録公報 2005-050

【出願番号】特願 2003-562329 (P2003-562329)

【国際特許分類】

C 0 7 K 1/14 (2006.01)

G 0 1 N 30/88 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 1/14

G 0 1 N 30/88 J

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 14/00

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 28 日 (2005.12.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

同じサンプルから核酸及びタンパク質を単離する方法であって、前記方法は前記サンプルと固体担体を接触させる工程を含み、ここで同じサンプル中に含まれる核酸及びタンパク質成分は別個の固体担体に結合する、方法。

【請求項 2】

D N A 及び R N A の両方が同じ固体担体に結合する、請求項 1 の方法。

【請求項 3】

D N A 及び R N A が別個の固体担体に結合する、請求項 1 の方法。

【請求項 4】

D N A 及び R N A が別個の工程において異なる固体担体に結合する、請求項 3 の方法。

【請求項 5】

R N A とタンパク質、または D N A とタンパク質、または D N A、R N A とタンパク質を同じサンプルから単離する、請求項 1 ~ 4 のいずれかの方法。

【請求項 6】

前記 R N A が m R N A である、請求項 5 の方法。

【請求項 7】

前記 D N A がゲノム D N A である、請求項 5 または 6 の方法。

【請求項 8】

全 R A N 及び / または全 D N A が単離される、請求項 1 ~ 7 のいずれかの方法。

【請求項 9】

全核酸成分が単離される、請求項 1 ~ 7 のいずれかの方法。

【請求項 10】

全タンパク質成分が単離される、請求項 1 ~ 9 のいずれかの方法。

【請求項 1 1】

前記サンプルが食品または関連製品であり、または臨床、環境、または生体サンプルである、請求項 1 ~ 1 0 のいずれかの方法。

【請求項 1 2】

前記サンプルと前記固体担体を接触させる前に、該サンプルを核酸及び／またはタンパク質成分をそれらが含まれる構造または構成要素から遊離させるための予備処理工程に供する、請求項 1 ~ 1 1 のいずれかの方法。

【請求項 1 3】

前記サンプルと前記固体担体を接触させる前に、該サンプルを細胞単離手順に供する、請求項 1 ~ 1 2 のいずれかの方法。

【請求項 1 4】

1 以上の特定細胞集団を特異的に単離する、請求項 1 3 の方法。

【請求項 1 5】

単離に用いるサンプルまたは細胞集団を、該サンプルと固体担体との接触前に、細胞溶解工程に供する、請求項 1 ~ 1 4 のいずれかの方法。

【請求項 1 6】

前記サンプル内または前記サンプルから単離した細胞の細胞表面タンパク質を細胞溶解工程前に、*in vitro* 修飾手順に供する、請求項 1 5 の方法。

【請求項 1 7】

サンプルが前記方法のどの段階においても分割されない、請求項 1 ~ 1 6 のいずれかの方法。

【請求項 1 8】

細胞単離及び／または溶解後、または前記予備処理工程後にサンプルを分割する、請求項 1 2 ~ 1 6 のいずれかの方法。

【請求項 1 9】

前記サンプルを連続的に、または同時に、または並列に前記固体担体と接触させる、請求項 1 ~ 1 8 のいずれかの方法。

【請求項 2 0】

第 1 の工程において DNA を前記サンプルから単離し、第 2 の工程において RNA を前記サンプルから単離し、第 3 の工程においてタンパク質を前記サンプルから単離し、これらの工程を任意の順序で行う、請求項 1 9 の方法。

【請求項 2 1】

DNA が表面カルボキシル基を運ぶ担体上で単離される、請求項 1 ~ 2 0 のいずれかの方法。

【請求項 2 2】

合成洗剤の存在下、DNA を固体担体に結合することにより単離する、請求項 1 ~ 2 1 のいずれかの方法。

【請求項 2 3】

細胞溶解及び固体担体への核酸または DNA 結合が同時にまたは付随して起こる、請求項 1 3 ~ 2 1 のいずれかの方法。

【請求項 2 4】

RNA を固体担体により運ばれる、または固体担体に結合した、または結合することができる RNA 特異的捕捉プローブを用いて単離する、請求項 1 ~ 2 3 のいずれかの方法。

【請求項 2 5】

前記捕捉プローブが d T オリゴヌクレオチドまたは d U オリゴヌクレオチドである、または含む、請求項 2 4 の方法。

【請求項 2 6】

タンパク質を固体担体により運ばれる、または固体担体に結合した、または結合できる適当な結合パートナー／配位子を用いて単離する、請求項 1 ~ 2 5 のいずれかの方法。

【請求項 2 7】

タンパク質をクロマトグラフ相互作用を生じることができる表面を有する固体担体を用いて単離する、請求項 1 ~ 25 のいずれかの方法。

【請求項 28】

前記固体担体が粒子を含む、請求項 1 ~ 27 のいずれかの方法。

【請求項 29】

前記粒子が磁気粒子である、請求項 28 の方法。

【請求項 30】

同じサンプルから核酸及びタンパク質を単離するためのキットであり、以下を含む：

(a) 核酸成分を結合するのに適した固体担体；

(b) タンパク質を結合するのに適した固体担体、

ここで a) 及び b) の担体は別個の固体担体である。

【請求項 31】

(a) の固体担体が DNA または RNA または両タイプの核酸に選択的に結合する担体を含む、請求項 30 のキット。

【請求項 32】

キットが (c) 特定細胞集団の単離に適した固体担体及び / または (d) 前記細胞を溶解する手段、及び / または (e) 核酸及び / またはタンパク質を検出する手段も含む、請求項 30 または 31 のキット。

【請求項 33】

mRNA 及び / またはタンパク質発現及び / またはゲノム情報とそれらの相互関係の 分析 及び / または 比較 のための請求項 1 ~ 32 のいずれかの方法の使用。